トランストロン

運行管理で各機能拡充

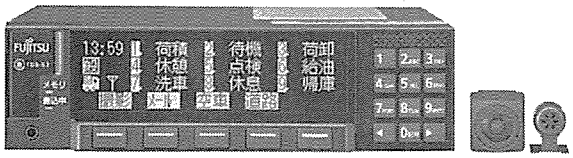
より使いやすさを追求

富士通グループのトランストロン（本社・横浜市、大岡信一社長）は7月31日、ネットワーク型デジタルタコグラフ（運行記録計）で利用できるクラウド型運行支援サービスをレベルアップした。より使いやすいよう、ドライブレコーダーや日報・帳票、地図などの各機能を拡充。ドライバーが安全・快適に働ける環境を支援する。

（小林　孝博）

同社は現在、ネットワーク型デジタコ「DTS-D1A」とドラレコ搭載型の「DTS-D1D」を販売中。高速通信・LTEとクラウドを活用した多彩なサービスを受けることができ、7年前に発売のDTS-C1シリーズを含め、累計出荷台数は10万台を超える。

ネットワーク型デジタコは、車両の運行状況をリアルタイムに確認できる。D1シリーズは必要な情報を必要な時に簡単に使えるように、各機能を強化。問題のある運転を検知した際、すぐに運行管理者が対応し、点呼などで活用できる仕組みをつくり上げた。



おととしの発売来、ユーザーが拡大している（写真はDTS－D1）

◆維持更新は全自動化

2年前のD1シリーズの発売に合わせ、運行支援サービスも「ITP-Web Service V2」に刷新。完全ウェブ化により、運行管理者は外出先でもタブレット端末でドライバーの運行情報を確認できるようになった。

堅ろう性の高い富士通のクラウドセンターを活用し、デジタコで取得したさまざまな情報や、追加機能をより便利に安心して利用できる点も魅力の一つ。システムの維持・更新は全てクラウドが自動で行い、初期費用を含め、ユーザーは負担を大幅に軽減できる。

◆6種類の機能対象に

7月31日に実施したのは、同社が定期的に行う運行支援サービスのレベルアップ。今回は要望が強かった6種類で新たな機能を加え、ユーザーのさらなる利便性の向上を実現した。一部を除き、C1、D1のどちらの機種を使っていても追加機能を利用できる。

D1シリーズ向けのレベルアップではドラレコ機能を拡充した。車線逸脱、車間検知機能を搭載した92万画素のデジタルカメラをはじめ、車内外に計5台のカメラが設置可能な同機種は、動画を常時撮影している。一方で、ユーザーからは「ドライバーの休憩中などは撮影を控えたい」との要望も上がっていた。

◆動画取得さらに延長

そこで事前設定により、指定箇所での撮影を抑止する機能を追加。例えばドライバーが休憩ボタンを押すと、車内のみ動画撮影と音声録音を停止する。GPS（全地球測位システム）で車両位置を把握する機能を生かし、指定エリアの撮影を控えることもできる。

ドラレコ関連では、動画再生時の情報も追加し、ウインカー、ブレーキなどの操作がどう行われていたかの確認が可能に。従来30秒間単位だった動画の取得時間も最大「2分30秒」まで延長。運行管理者は5分ごとに送信される各車のスナップショット（静止画）と、急ブレーキなどの情報を基に、高画質動画を何回でも無制限に取得できる。

◆天候変化も常時把握

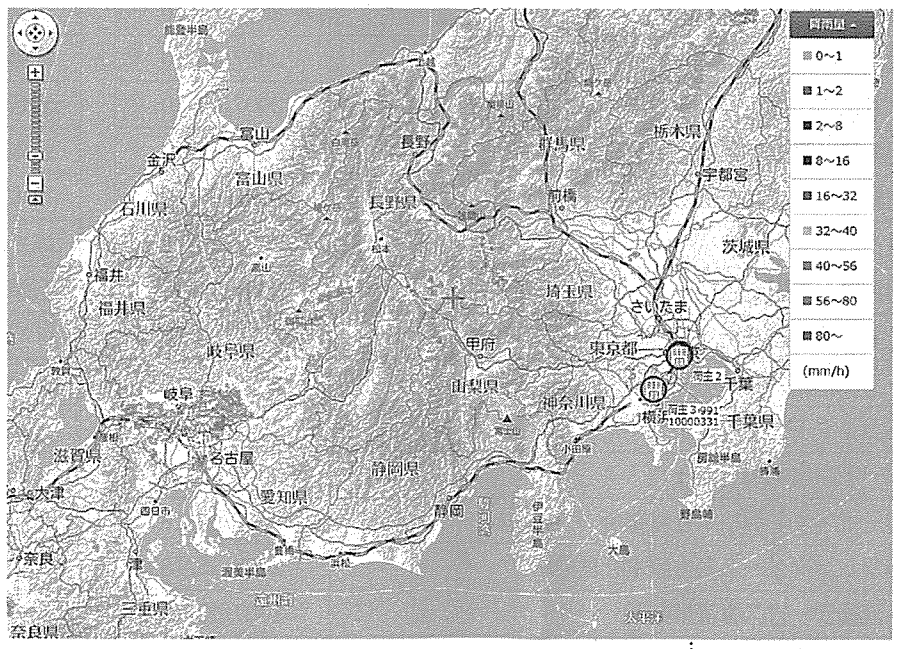
またC1、D1シリーズの両機種で利用可能な機能についても、ユーザーのさまざまな要望を取り入れた。一例が地図機能のルート検索で、出発地から目的地までの経路を画面上に表示。地図上で10分おきに雨雲マップを表示する機能も採用し、運行管理者が車両位置と天候の変化をリアルタイムに確認できる仕組みも構築した＝写真。

◆労務管理を一層徹底

「事前にドライバーが向かう先の天候が分かれば、テキストメッセージなどを通じ状況に即した指示が出せる。出発前の点呼でも活用し、運行管理者とドライバーのコミュニケーションを深めてほしい」（トランストロン）。

他にも、日報・帳票で温度チャートグラフをより細かく分析できるようにしたり、画面上の動態表示で長時間運転を運行管理者に通知したりするなど、さまざまな機能を拡充。昨年提供を開始した「運行コンシェルジェ」では、1週間当たりのドライバーの労務関連記録を分析し、運転時間や拘束時間などの法令違反が起きないよう、的確な指示を出す機能も追加した。

機器の本体価格はDTS-D1Dの場合、デジカメを含めて27万9000円。運行支援サービスの利用料は運行管理、動態管理、Q&Aなどを含め、1車両当たり2690円（いずれも税別）。問い合わせ先は同社情報サービス営業部、電話045（476）4640。



地図上に雨雲情報を表示することにより、状況に即した指示が可能に